環境パートナーシップちば
だより
―つながれ ひろがれ―

第１４２号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

SDGs･ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業

【開催報告】SDGs･ESD 理解促進公開セミナー

今年度の“ちば”拠点づくり事業で集まった公開セミナー企画チームが中心となり、10 月３日（日）（13:30～16:00）、オンラインで公開セミナーを開催しました。

実際の地域づくりや環境保全活動などに、SDGs･ESD の考え方がどのように関連しているかという切り口で、先進例を学ぼうという企画です。

≪基調講演≫

基調講演は大崎地域世界農業遺産推進協議会事務局長 高橋直樹氏による、宮城県の世界農業遺産大崎耕土が舞台の「自治体の地域づくりを通した SDGs+ESD 実践」でした。大崎耕土は、2017 年に世界農業遺産に登録されました。古くから厳しい自然環境下で、生活を維持するため水管理に様々な知恵や工夫を重ね発展させ、持続可能な水田として存続している。屋敷林「居久根（いぐね）」や豊かな土地資源が生かされた、人と自然の共生。このような農村環境の魅力を「世界農業遺産」として発信し、特産物の生産や、フィールドミュージアムとして観光や学習の受け入れも積極的に行っている、という紹介でした。時間も手間暇もかけ醸成された豊かな大地は、映像もとても美しいものでした。

≪事例紹介≫

千葉県南の活動事例紹介を２つ。まず合同会社アルコ代表 沖浩志氏（館山市で地域おこし協力隊をされていた）による「持続可能な環境としての獣害対策 等」で、野生鳥獣の被害が深刻である。千葉県では獣害の半数以上がイノシシによるもので、農作物や人の生活へ大きなダメージを与えている。人口減少や高齢化で里山の手入れが行き届かないなど社会問題も大きく絡んでいる。捕獲したイノシシの廃棄は９割。三方よし（自分、相手、環境）をモットーに、自治体も巻き込んで進めている事業紹介もありました。そもそも遠く外国で育てられた食肉ではなく、地元の肉を食べるのはごく自然なこと、という感覚を私は思い出しました。

２つめは、NPO 法人いすみライフスタイル研究所 副理事長 江崎亮氏による「移住･定住促進の『まちづくり』」で、若手商工業者と行政の協働による自然環境をいかした豊かで明るいまちづくりについてでした。Ｕターン、J･Iターンなど、土地に縁がある人もない人も、住むために必要なお手伝いをします、というものでした。「地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成」「地域の特性に応じて補完し、支え合う」ことで地域の活力が最大限に発揮されることを目指し、生活の質を向上する「新しい成長」を目指すローカル SDGs となる。地元の自然の中での環境学習も用意されている。また、生きものの世界の中に、人間の世界が含まれている図も含めて、まちづくりを論理的に、しかし紙の設計図ではなく現実のものとして成功している様子がうかがえ、感動しました。

新型コロナウイルス感染対策の緊急事態宣言が９月末まで延期されたため、オンラインのみの開催としました。当日の参加は、一般、行政、事業者を合わせ 46 名でした。自宅にいながら講師陣の素晴らしい話をライブで聞けるなんてすごく贅沢なこと！と喜んだのは私だけでしょうか？後半のミニ交流会では、短時間でしたが、初めてお目にかかる方とも話ができました。

（文責：中村 明子）

大崎耕土の田園風景（ホームページより）

ご視聴いただけましたか？ オンラインで２日間開催！

第 26 回エコメッセ 2021 in ちば 報告

～Prosperity　笑顔あふれる未来を創ろう～

エコメッセちば実行委員長　桑波田和子

日　時　　：2021 年 10 月 16 日（土） 9：50～16：00　10 月 17 日（日）9：50～16：00
Web 配信　：エコメッセちばホームページ（https://www.ecomesse.com）
主　催　　：エコメッセちば実行委員会

今年もオンラインで２日間の開催となりました。※（団体紹介は 2022 年エコメッセ開催前日まで配信。他は年度末まで配信）開催形態は、会場開催をぎりぎりまで検討しましたが、夏の感染状況から、今年もオンラインと判断しました。

今年は、Prosperity（豊かさ：SDGs7～11）を掲げ、テーマを～Prosperity　笑顔あふれる未来を創ろう～でした。エコメッセの HP の団体紹介は、SDGs7，11 を主目標としている団体から掲載しています。

今年のエコメッセの主なポイント

・熊谷知事からエコエコメッセへメッセージをいただきました。
・双方向企画（団体と一般参加込み者をオンラインで繋ぐ交流：２日間開催）
・SDGs ユース企画　内容も豊かです。
　※詳細は石川さんの報告をご覧ください。
・SDGs オンライン座談会～1.5℃ライフスタイルをヒントに～テーマ：自分ごととして「SDGs」にどう取り組む。

以上ですが、団体紹介動画は、見やすく伝わりやすい工夫がみられます。また、初めての取組「双方向交流」は、企画運営する団体、参加者数等課題もありましたが、充実した交流だったとの感想も頂きました。温暖化防止への待ったなしの現状を、暮らしの視点からの SDGs 座談会での意見を基に展開していくことが今後必要と思います。「エコメッセ 2022in ちば」へつないでいきます。

※エコメッセ 2021in ちばの報告は、エコメッセちばホームページにも、準備が整い次第掲載します。

エコメッセ 2021 in ちば『SDGs ユース企画』

～2 年目の軌跡と今後の抱負～

学生団体おりがみ　石川輝明

2021 年 10 月 16 日、17 日に「エコメッセ 2021 in ちば」がオンラインにて開催されました。若者（ユース）を中心とした SDGs 企画「SDGs ユース企画」も、前年に引き続き２回目の開催を無事終えることが出来ました。

～SDGs ユース企画、２年目の開催にあたって～

２年目の「SDGs ユース企画」となった今回は、時間も企画数も大幅にバージョンアップ。6 時間という長時間の枠をいただき、SDGs に関するパネルディスカッション「SDGs ユース会議」、東京五輪と環境問題に関する取り組みをまとめた「オリンピック特集」、企業・行政の SDGs への取り組みをインタビューした「SDGs 団体インタビュー」、マイクロプラスチックゴミを用いた「ゴミアート」製作の 4 つの企画を実施しました。いろんな切り口から環境問題や SDGs を捉え、エコメッセちばのコンセプトでもある“楽しみながら”環境について考えられるような企画を皆さんに届けられたと思います。また、企画の作成にあたって、自分たち自身も勉強になることが大変多く、とても良い機会になりました。

～SDGs ユース企画、今後の抱負～

２年目となる今回の SDGs ユース企画では、企画数、時間の長さの面で、大幅にバージョンアップするとともに、いろんな初めての試みに挑戦することができました。ユース、市民団体、企業や行政といった多様なステークホルダーの方と一緒に企画をすることが出来たのも大変良かったです。SDGs のゴール 2030 年まで残り９年。協力してくれた方への感謝を忘れず、謙虚に、そして貪欲に環境問題に向き合い、さらにバージョンアップした「SDGs ユース企画」を皆さんにお届けできたらと思います。また来年のエコメッセちばでお会いしましょう！

プラゴミアート製作中

「ひろげる人づくり～SDGs ちばユース活動発表会」報告Ⅱ

ビーチクリーン × ユースSDGｓ × 里山 で未来をめざす

～ユース発表交流会 2021in エコメッセちば～

事業企画運営ユースチーム事務局　横山清美

だより 141 号で報告されたユースチームが実際にどのように企画運営したのかを、チーム事務局からお伝えします。

10 月 17 日の「SDGs ちばユース活動発表会」は、当初エコメッセちば会場内での開催企画でしたが、全面オンラインになり双方向企画（zoom 会場）での開催と変更になったところから、Zoom 開催に切り替えて準備をしました。

内容は、「ビーチクリーンとプラごみアート」「シェア里山」「地域づくり」「子ども×地域」のテーマでの発表と、岡山の山陽学園中・高の地歴部による「SDGs 啓発活動～問題を『自分事』として捉える実践への挑戦～」の発表後、全員参加で、地域づくりと未来・サステナブルにする・自分事などのテーマで交流する、という企画でした。

難関の全員参加の交流会ファシリテーターには bayfamDJ の KOUSAKU さんにお願いして、打ち合わせを２回ほど zoom でさせていただいた時には、既に開催日直近になっていました。

急いで司会進行担当の方が台本を作って共有し zoom 運営はメンバーの会社事務所をお借りして２名体制で実施するなど、いくつもの難関を切り抜けました。この中で培った成果は、打ち合わせを重ねて全員が共有していくと達成できる、ということを学べたことでした。

交流会で意見交換ができて、12:30 に時間通りに終了できました。発表者の協力と KOUSAKU さんのプロの技に感激・感謝いたします。

当日の内容は、近日中に環パホームページ上から YouTube 配信します。ご覧いただけますよう、お願いします。

チームとしても、これでゴールではなくスタートと考えています。新しいメンバーも募集していきたいと思います。ご協力ください！

SDGs・ESD をひろげるための”ちば“拠点づくり事業

【開催報告】　第２回拠点づくり会議

■日　時：11 月８日（月）13：00～16：00
■場　所：とみうら元気倶楽部（交流室　健康相談室・オンライン（Zoom））
■参加者：26 名（会場：17 名　オンライン：９名）（市民団体、事業者、行政）
■ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部　教授
■主　催：NPO 法人環境パートナーシップちば

≪主なプログラム≫
・第１回会議ふりかえり
・拠点づくりに向けてのワークⅠ
　ありたい地域に向けて、具体的な拠点づくりのアイデアを考える。
　（宿題からのアイデア抽出案を参考に）
・拠点づくりに向けてのワークⅡ
　アイデア実現に向けての拠点の機能、運用方法検討

第１回拠点づくりでの「ありたい地域」への意見をふまえて、第２回までの宿題として「ありたい地域イメージに近づくため、 この拠点でどんなことができたらいいですか？」「拠点が出来たら私が出来ること」が提出され、それを基に、第２回会議ではワークを行いました。ハイブリット開催でしたので会場を２グループ、オンライン１グループの計３グループごとで協議し、全体へ報告する形で進めました。

ワークⅠでの主な意見は、多様な人が集まり交流出来る場は必要。それは具体的な場所か？ネットワークでつなぐ場か？・・今後の課題。

ワークⅡでは、拠点づくりイメージ図（事務局案）を基に、拠点として、地域・自治体・学校・事業者・NPO 等主体の中に加えたい主体。具体的な活動、運営のために必要なものなどについて協議しました。

これらの課題を実現できるように、より具体的な事として、第３回（2月 21 日）開催に向けて準備を進めていきます。

（文責：桑波田 和子）

会員定例会がスタートしました

■日　時：10 月 14 日（木）20：00～21：30
■場　所：オンライン（Zoom）
■参加者：13 名
■内　容：環パちば紹介＋自己紹介（参加者）

今回初めて当会の会員さんと事務局との交流会「会員定例会」をオンラインで開催しました。任意団体設立当初は会員の集まる機会も多く、そこから出された意見をもとにセミナーやイベントなど実施展開してきました。その後、県内の各団体は、自立団体として育ち地域で活躍し、県内の環境保全活動を担ってこられています。当会も 2018 年に持続可能な社会づくりへ向けて,SDGs/ESD の視点を強める中間支援団体として、法人格を取得しました。

中間支援団体としての活動は未だ不十分な点もありますが、現在は SDGs・ESD を担う人材づくり、また活動の場としての拠点づくりの事業を展開しています。

事業を進めていく上で、地域での団体活動継続、持続可能なまちづくり等多くの課題があることも目に見えています。中間支援団体としての活動の場は多くあると実感します。

以上のような事業を通して当会へ入会された方も出始めました。今回参加の方は特に新しい会員が多く、当会についてお互いに知り合う定例会になりました。

定例会はしゃべり場のよう雰囲気で進行しましたので、自由な意見が多く出ました。中でも、環境への意識が弱い人へのアピールをどうすればよいのか？の提案では話が盛り上がりました。まさに持続可能な社会をみんなが自分ごととしてとらえるための活動が期待されています。会員の定例会を通して、さらにお互いが協力し活動が広がる NPO 環パちばとしてご一緒に活動していきましょう。

次回の定例会は２月を予定しています。是非ご参加ください！

（文責：桑波田 和子）

オンラインで学ぶ ESD プログラム公開体験会に参加

令和３年 11 月７日（日）に表題の体験会に参加しました。

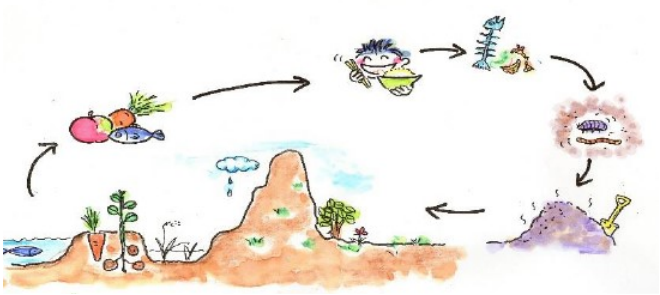
この会は、主催者環境パートナーシップちばが 2018 年から 3 年間に取組んだ事業の柱である「ESD 地域リーダー育成事業」に参加された方々が編纂された環境学習プログラムを基に、今年度のプロジェクト事業の一つとして開催したものです。

新型コロナ禍のもと活動に制限が加えられる中、オンライン（zoom）中継会場の提供を受け、配信スタッフ４名が前日から開催当日まで中継の実験を重ねました。特に参加者の皆さんが出来るだけリアルな体験を得られるよう、会場には教材の現物を持ち込み、zoom 画面で臨場感が得られるよう工夫が重ねられたライブ配信でした。

講師の津本純子氏（NPO 法人ビオスの会）より「～SDGs/ESD と私たちのつながり～生ごみリサイクル教室」の発表があり、発表後に意見交流会の場が設けられて中身の濃い話題で盛り上がりました。

発表は、講師が実際に千葉市内の小学校で総合学習時間に実施しているプログラムを重ねて行われ、前段は《生ごみ堆肥の解説》で千葉市内の生ごみの現状を取り上げ、可燃ごみは 17 万トンあり、そのうち生ごみが 34%あるから、これを堆肥化すれば可燃ゴミの減量化が図れ、加えて地球温暖化要因の二酸化炭素排出の減少にもなることの説明がありました。後段は投入時の生ごみが堆肥化された現物について、生ごみの重量と堆肥化されたときの重量対比についてふれ、微生物の活躍についても説明がありました。

体験会に参加して、日ごろ発生する生ごみをやっかいものではなく、地球の大事な資源と捉えることの重要性を改めて感じました。



（文責：萩原 耕作）

公民館講座 実施報告

「プラごみの削減を考える 風呂敷の魅力 再発見！」

９月 17 日（金）午前 10～12 時　新宿公民館〔担当：桑波田 中村〕

昨年度、新宿公民館から「風呂敷講座」の依頼がありました。新型コロナウイルス対策等諸問題もありましたが、環パ独自の風呂敷講座のプログラムを作り上げ、感染対策に細心の配慮をしながら実施しました。

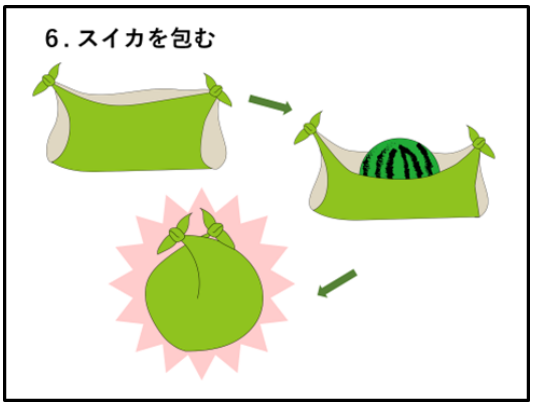
レジ袋が有料化になったのは、昨年の７月。ですがレジ袋やプラごみにまつわる問題は簡単ではありません。「レジ袋を使わないことが、直、環境に良いのか？」「レジ袋は、ごみ袋として“リユース”している」「エコバッグだって製造時、環境に負荷をかけている」など様々な反論もあります。

このプログラムは風呂敷の魅力の再発見です。物を運ぶときや大切なものを保管するとき、世界共通で日本でも昔から使われていた方法は「布でものを包む」ことです。一枚の布があれば、四角い箱、ワインの瓶、丸いスイカなど、様々な形のものを包むことができます。「便利な布」を“思い出して”もらいます。

真結びも、みんなで練習しました。普段は無意識に自分の癖で結んでいる方がほとんどだと思いますが、基本の「真結び」はやはり見た目もきれいです。そして真結びは、簡単にほどくこともできます。実はこの“ほどける”が、この講座で一番ウケました。

参加者は大人ばかり 12 名でした。最後に各自持ってきた風呂敷を紹介しあいましたが、様々な色柄は季節やシーンに合わせて使う気遣いやおしゃれ心を表し、身近に楽しめる日本の美の再発見にもなりました。

エコとは「節約」や「ケチ」ではなく、遊び心で生活を豊かにするものです。なんだかとても楽しい講座になりました。　（文責：中村 明子）



「Chiba クリーンアクション 竹林整備事業」（千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト）がスタート

千葉大学の学生団体である環境 ISO 委員会と京葉銀行が、NPO 法人竹もりの里、一般社団法人もりびととの共催で、「Chiba クリーンアクション竹林整備事業」（千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト）を始めました。千葉県内だけでなく全国的に大きな問題になっている荒廃した竹林を整備し、伐採した竹は竹パウダーや竹炭などとして活用しようという活動で、実際に竹林整備・竹材活用を行っている「竹もりの里」と「もりびと」が技術指導をして、将来的にはビジネス化も目指すというすばらしいプロジェクトです。NPO 環境パートナーシップちばは、このプロジェクトの趣旨に賛同して後援しています。

第１回目は竹林整備の体験に先立ち、2021 年 10 月９日に京葉銀行千葉みなと本部で、県内の竹林の実情や竹材の有効活用についての勉強会が行われました。NPO 法人竹もりの里の鹿嶋理事長から「放置される竹林を活かし循環型社会を目指す」というレクチャーを受け、学生さんたちはメモを取りながら熱心に勉強し、活発に質問をしていました。環境パートナーシップちばからは、小倉が「プラスチックから竹へ―サスティナブルな選択―」と題して、竹にからめた SDGs の話をさせていただきました。

今年度は 10 月 30 日と 12 月４日に、実際に竹林現場の整備を体験するそうです。

ちなみに、このプロジェクトは、「もりびと」代表理事の千葉美賀子さんが 2020 年度の地域リーダー人材育成事業の中で作ったプログラム「一番身近な里山≪竹林≫の整備と活用」の内容を一歩実現に近づけたもので、大変うれしいことです。　（文責：小倉 久子）

講演会「手賀沼のヌマベを核とするまちづくり」

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　小倉 久子

手賀沼流域フォーラム実行委員会では、各地域で一斉に行うクリーン活動のほか、毎年 20 件以上の地域企画と流域全体で取り組む全体企画のイベントを開催し、多くの参加者を得ています。

2021 年度の全体企画として 10 月 23 日に我孫子市生涯学習センターのホールにおいて、現在手賀沼の東端エリアで活動している若い人たちの話を聴く、標記の講演会を開催しました。

幸い、コロナが落ち着いていて会場開催が実現し、50 名の定員はほぼ満席となりました。

講演会は３人の演者を迎えて、次のような変則的な構成で行いました。

①はじめに（報告）「柏市の農と手賀沼の水辺を活用する戦略とは？」を、このプロジェクトの仕掛人である鈴木亮平さん（手賀沼アグリビジネスパーク事業推進委員会事務局）

②講演「ひとつながりの『ヌマベ』をデザインする」を、永野真義さん（東京大学都市デザイン教室）

③事例活動報告「子どもの遊びが流域をつなぐ」を、実際にヌマベを活用して活動している渡辺玲衣さん（手賀沼まんだら（ヌマベクラブ））

今まで手賀沼流域で活動している人たちは、手賀沼が「日本一汚い沼」の時代から、手賀沼をなんとかしてきれいにしなければ、という熱い想いを持っています。でも、演者のグループはそんなことは関係なく、ただ「手賀沼ってすてき！ここで子どもたちと一緒に遊びたい！」と単純に思って、自分たちの手で沼辺を整備して『ヌマベ』を作り、『ヌマベ』を楽しんでいるのです。今までとは全く次元の異なる発想なのです。

終わった後のアンケートでは今までになくたくさんの方から、若い世代の活動の様子を大変好意的に受け取ったというコメントが寄せられ、本当によかったと思いました。

センス・オブ・ワンダー清里自然あそび

レイチェルカーソン日本協会関東フォーラムが、毎年「清里自然あそび」を季節を変えて開催しています。今年は、エコメッセちばが終わった 10 月末でしたので、久しぶりに参加してまいりました。

迎えてくれた清里は、晴天の青空に紅葉がくっきりとした素晴らしい景色でした。清里駅からの登り道を清泉寮ファームショップまで歩き、目の前に牧草地が広がって遠くに富士山が眺望できるテーブルに座り、昼食のハヤシライスともちろん有名なソフトクリームもいただき、大満足。

宿泊の清泉寮自然学校に集合後、自己紹介ワークの後、自然学校の指導者による参加型秋の森の観察会がありました。中でも私のお気に入りプログラムは、「葉っぱっぱ」という、自分のお気に入りの「葉っぱ」を３枚探して、２人組で一斉に葉っぱを出して自分の葉っぱの大きさ、色や特徴などで自慢するもので、楽しかった。

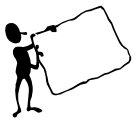
夕飯のバーベキューは、男性メンバーが腕を振るってくださり、感謝。その後の星空観察会は、雲が出て残念ながらの結果でしたが、暖炉を囲んでのおはなし会は、代表小川まり子さんによる参加のお子さんに対する優しいご配慮のプログラムでした。

翌朝は霧の中の散歩の後、美味しい朝食にお代わりする人続出。午前の自由時間には、雨の中の森を歩いて、お目当ての八ヶ岳ふれあい自然観察センターへ。新しい展示が充実していて、いつもながらに興味深く拝見してまいりました。霧の中を自然学校に帰り、昼食、ふりかえりをして解散となりました。ゆっくりと過ごせた清里でした。

参加されたお子さんは、センスオブワンダーに火が付いたようで、採集袋と虫眼鏡を持って、毎日のように公園に出かけていらっしゃるとのお話でした。

（文責：横山 清美）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　61　―
おききしました！　この人・この団体



コンセプトは SDGs スクラム

ANESAKI ACADEMY

代表　井前 省吾

団体紹介

ANESAKI ACADEMY は、コロナ後の New normal（新たな日常）に向けて、交流と学びの場を提供し、地域の活性化と市民主導のまちづくりを展開していきます。コンセプトは SDGs スクラム、SDGs でスクラムを組んで、地域に新しい価値を生み出していきます。

■活動の中心は目標１２
持続可能な消費・生産形態を確実にする【つくる責任つかう責任】
※なぜ、まちづくりが目標１２なの？
日本の社会インフラは建設から維持管理の時代に入り、老朽化への対応が急務になっています。さらに人口減少によって、遊休化する資産が急増しています。感染症パンデミックスを契機に都市部の空洞化が進み、人々の価値観も大きく変化、サーキュラーエコノミー（循環型経済）への移行が急速に広まり、モノを持たないシェアの概念が当たり前になってきています。
市民主導のまちづくりにおいても、「使用していない」「空いている」モノや空間を共有し最大限に活用することで、現存する様々な資産の価値を最大化していかなければなりません。
これが、私たち ANESAKIACADEMY が目標 12 を活動の中心に置いている理由です。

■交流の場 ～ Job Cafe & 姉崎でモーニング
リアルとオンラインのハイブリッド形式で交流を深めています。

Job Cafe K

■エコメッセ 2021 in ちば
ユース交流
ユースとの交流では、あるものをどう活かすか＝どう資源として見れるか、多様な参加とアイデアを皆が後押しする仕組みづくりなど、多くの気付きを得ることができました。

■実証フィールド
・公民連携１_駅前地区（JR 姉ヶ崎駅西口周辺）
※連携先：市原市拠点形成推進課
市原市の JR3 駅周辺のまちづくりに関する勉強会にて、事業アイデア『雨に強いまちづくり～市民主導グリーンインフラ３駅協働モデル事業』を立案し、社会実験に着手しています。
・公民連携２_住宅団地（市原市青葉台）
※連携先：市原市地域連携推進課
私の住む市原市青葉台は、令和３年度あしたのまち・くらしづくり活動賞で最高賞の「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

【評価された点】
高齢化する団地の再生という全国的課題への先進事例になり得る取り組み。地域全体で危機感を共有し、地元の中高生を企画段階から巻き込むことで多くの人が参加する未来志向で主体的なまちづくりにつながっている。行政はあくまで後押し、後方支援という姿勢が相互に信頼感のある公民連携を生み出している。

市長表敬訪問

これからも実証フィールドで深く濃い実体験を積み重ね、ANESAKI ACADEMY を通じて広く展開していきます。

運営会議報告

１０月度運営会議

１０月１４日（木）13:30～15:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- エコメッセオンライン出展申し込み
- 地球環境基金事業
- 新宿公民館自主講座　9/17
- だより 141 号発行
- 理解促進公開セミナー開催　10/3
- 京葉銀行・千葉大環境 ISO 委員会事業　他

【協議】
- エコメッセ開催　・だより 142 号
- 会員定例会開催　・印旛沼環境基金事業
- いちはら市民大学（環境コース）
- ちば環境再生基金事業　　他

１１月度運営会議

１１月１１日（木）13:00～15:20
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- エコメッセ 2021in ちば開催　10/16･17
- 会員定例会開催　10/14　（次回は 12/15）
- 印旛沼環境基金事業　助成金交付取り下げ
- ESD プログラム公開体験会実施　11/7
- 第２回拠点づくり会議　11/8　他

【協議】
- いちはら市民大学（環境コース）11/16・30
- ちば環境再生基金事業
- 地球環境基金ヒヤリング
- ESD 全国フォーラム 2021 特設サイト」の中ポスターセッション出展募集
- 理事会開催の検討　　他

お知らせ

エコプロ 2021　持続可能な社会の実現に向けて Think! Act!

・会場開催
12 月 8 日（水）～10 日（金）
東京ビッグサイト[東 2～3 ホール]
入場無料、来場事前登録が必須
https://eco-pro.com

・オンライン展示会
（エコプロ Online 2021）
11 月 25 日（木）～12 月 17 日（金）

参加申し込みは WEB（上記）上での会員登録のみで OK

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2021

ESD for 2030 のキックオフ ～脱炭素社会づくりに向けた ESD 推進ネットワークの役割～

・日時　2021 年 12 月 11 日（土）9:30～16:30
・会場　オンライン開催
お申込みいただいた方に Zoom の URL をお知らせします
・参加対象　全国の「ESD=SDGs 実現に向けた人づくり」に関わる学校・団体・企業など
・参加費　無料
・詳しくは下のホームページをご覧ください。

https://esdcenter.jp/hottopics/zenkoku-forum2021/

・主催　ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省
・協力　地域 ESD 活動推進拠点、地方 ESD 活動支援センター

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。